

令和3事業年度

公立大学法人尾道市立大学
業務の実績に関する評価結果

令和4年8月

尾道市公立大学法人評価委員会

尾道市公立大学法人評価委員会 委員名簿

(50音順、敬称略)

分野	氏名	現職	備考
財務	瀬戸 務	瀬戸務税理士事務所	
大学運営	高垣 孝久	尾道商工会議所常議員 商業委員会委員長	
地域貢献	豊田 雅子	NPO法人尾道空き家再生プロジェクト代表理事	
教育研究	◎萩原 泰治	岡山商科大学経済学部経済学科教授	
教育研究	藤井 保	広島県公立大学法人業務評価室長 県立広島大学 特任教授	

◎ 委員長

1 年度評価の方法について

評価の基本方針

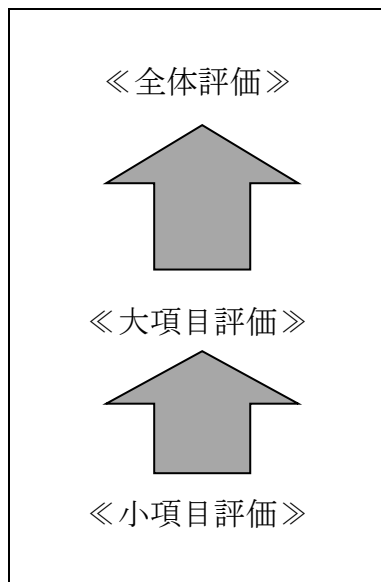
- 中期目標達成に向けた事業の進捗状況を確認する観点から評価する。
- 先進的・特徴的な取組や運営の改善を積極的に評価する。
- 法人化を契機とする大学改革の取組を支援する観点から評価する。
- 取組状況等を市民に分かりやすく示す観点から評価する。

評価の方法

- 年度評価は、「全体評価」と「項目別評価」により行う。
- 「全体評価」は、「項目別評価」の結果を踏まえ、中期計画の進捗状況全体について、次の事項を総合的に評価する。

- (1) 理事長のリーダーシップによる機動的・戦略的な大学運営を目指した取組
- (2) 社会に開かれた大学運営を目指した取組
- (3) 大学の教育研究、地域貢献等における特色ある取組
- (4) 業務運営等の改善及び効率化並びに財務状況の改善に関する取組
- (5) 自己点検・評価及び情報公開に関する取組
- (6) その他必要と認められる事項

- 「項目別評価」は、「小項目評価」及び「大項目評価」により行う。
- 「小項目評価」は、法人の自己評価結果の検証・評価を行う（4段階）。
- 「大項目評価」は、「小項目評価」の結果を踏まえ、中期計画の大項目ごとに総括評価を行う（5段階）。



【小項目評価】

評点

4	年度計画を上回って実施している。
3	年度計画を順調に実施している。 (達成度が概ね9割以上)
2	年度計画を十分に実施していない。 (達成度が概ね6割以上9割未満)
1	年度計画を実施していない。 (達成度が6割未満)

【大項目評価】

評点

S	特筆すべき進行状況にある。 (評価委員会が特に認める場合)
A	年度計画を順調に実施している。 (全て3以上)
B	年度計画を概ね順調に実施している。 (3以上の割合が7割5分以上)
C	年度計画がやや遅れている。 (3以上の割合が7割5分未満)
D	重大な改善事項がある。 (評価委員会が特に認める場合)

ただし、評価委員会において評価段階を1段階上下させることができる。

- 教育研究の特性に配慮すべき項目については、法人から提出された業務実績報告に基づき、事業の外形的・客観的な進捗状況の確認を行った。
- 今回の年度評価の結果が今後の法人及び大学運営に積極的に活用され、「地域に根ざした、市民から信頼される大学」の実現に向けて、教育、研究及び地域貢献が一層充実することを期待する。

2 全体評価

尾道市立大学は、「知と美の探究と創造」を建学の基本理念として、経済情報学部と芸術文化学部の2学部を置く公立大学法人として平成24年4月に設立された。

大学を取りまく環境は、少子化と人口減少、グローバル化の進展によって大きく変化している。その中で、次代を担う若者が、確かな学力と豊かな教養、自主的に考え行動できる主体性と積極性をもつことがますます重要になっている。これを実現するために尾道市立大学は、少人数教育の特長を生かし、「何事にも好奇心を持ち、積極的にチャレンジできる学生が育つ大学」「一人一人が成長を実感できる大学」「地域に入り、地域で学び、地域に還していく大学」の実現を目指している。

令和3年度は法人設立後10年目、第二期中期計画の第4年度であり、新型コロナウイルス感染症の影響により様々な制約を受けながらも、教育、研究、地域貢献、国際交流、自己点検・評価の各分野における重点取組項目に従って、理事長を中心に自律的で効果的な事業実施が進められた。

令和3事業年度の業務の実績については、6つの大項目のうち、4項目がA評価（年度計画を順調に実施している。）、2項目がB評価（年度計画を概ね順調に実施している。）となっており、特徴のある取組として、次の事項が挙げられる。

- ① 遠隔授業等のオンライン対応のための講義収録システム等設備や機材の導入、学生への教材送付等、新型コロナウイルス感染症対策に取り組んだ。また、申請書等の押印見直しによるオンライン申請等業務の効率化を図った。
- ② 対面でのオープンキャンパスができないため、昨年度開催したオープンデイズをオンラインオープンキャンパスに名称を変更し、コンテンツの更新・拡充を図った。学生の生き生きとした姿がよく見える情報発信や創作よろづ相談コーナーや作品相談コーナー等のリアルタイム企画の他、尾道新聞と連携した「研究室探訪」の企画も開始した。
- ③ 市民向けのコンピュータ公開講座及び情報科学研究会をオンラインにより開催した。新しい取組として教養講座をケーブルテレビでの放送と本学YouTubeチャンネルでの配信を行った。
- ④ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、来日できなかった交換留学生については、オンライン授業の履修により6名を受け入れた。また、留学生対象の歓送迎会や発表会をオンライン形式で開催し、国内学生との交流機会を設けた。

第二期中期計画に掲げた重点課題の達成に向け、令和3年度年度計画の着実な実施に取り組んでおり、年度計画を概ね順調に達成するとともに、中期計画全体の推進が図られたものと評価できる。

令和4事業年度は、これまでの取組から明らかになった重点的項目及び課題を踏まえて、第二期中期目標の着実な実施に向け、年度計画及び中期計画を推進されることを期待する。

[大項目評価結果]

	S 特筆すべき進行状況	A 計画どおり	B 概ね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり	小項目評価結果
第4 教育研究等の質の向上	S	A	B	C	D	4 (3) 3 (100) 2 (5) 1 (1)
第5 地域貢献及び国際交流	S	A	B	C	D	3 (11)
第6 業務運営の改善及び効率化	S	A	B	C	D	3 (4) 2(1)
第7 財務内容の改善	S	A	B	C	D	3 (4)
第8 自己点検・評価及び情報の提供	S	A	B	C	D	3 (4)
第9 その他業務に関すること	S	A	B	C	D	3 (5)

中期目標・中期計画の主要な進捗状況等については、次のとおりである。

(1) 理事長のリーダーシップによる機動的・戦略的な大学運営を目指した取組

次の事項については、理事長のリーダーシップによる取組として評価できる。

- ア 引き続き新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン授業に対応するための設備や機材の導入、学生への教材送付等、同感染症対策に係る経費について、予算の重点化を図った。
- イ 各教員が、巡回指導や定期的な面談・ミーティングなどの機会を多く設定し、個々の学生にとって必要な指導を行った。これらを通して、要対応学生の早期発見、コース及び学科での情報共有に努め、医務室・学生相談室、教務係、障害学生修学支援委員会等との連携を密にとる体制を堅持し、当該学生への適切な対応に結び付けた。
- ウ 新型コロナウイルス感染症対策に関し、遠隔授業等のオンライン対応のための講義収録システムの整備等を行った。

(2) 社会に開かれた大学運営を目指した取組

次の事項については、社会に開かれた大学運営を目指した、市民や社会に対する説明責任を果たす取組として評価できる。

- ア 新しい取組として教養講座のケーブルテレビでの放送と、大学が管理し視聴者を限定した YouTube での配信を行った。
- イ 新型コロナウイルス感染症の影響で電話出演となる回もあったが、エフエムおのみち（ラジオ）に本学教員が出演し、それぞれの研究成果の概要を地域に還元する取組を継続して実施することができた。
- ウ 進級制作展、In Focus 12、鈴木恵麻展、卒業制作・修了制作展、教員展にてギャラリートークを録画・記録しアーカイブとして配信した。

(3) 大学の教育研究、地域貢献等における特色ある取組

次の事項については、大学の教育研究、地域貢献等における特色ある取組として評価できる。

- ア 尾道文学談話会は事前予約制とし人数制限を行い対面で開講した。4～9月にかけて全6回を計画していたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大のため4月の1回のみ開催となった。中止となった回を含め毎回定員に近い予約状況からみても、文学談話会は貴重な地域貢献の場となっている。
- イ 令和3年11月に開催された「しまなみ海道・秋の音楽休暇村2021」は、当初「音楽+宇宙」のイベントとして企画されていたため、天体・宇宙研究が専門の経済情報学科川口俊宏准教授が開催に関する助言（公共科学施設の情報など）を行うことによって地域の行事に貢献した。

ウ 交換留学生について、台湾国立嘉義大院生2名及び大連外国語大学生4名を、オンライン授業での履修を認めて受け入れた。

(4) 業務運営等の改善及び効率化並びに財務状況の改善に関する取組

次の事項については、業務運営等の改善及び効率化並びに財務状況に関する取組として評価できる。

- ア 業績評価を実施し、研究費の配分、表彰等において活用し、表彰を受けた教員をホームページで公開した。
- イ 新型コロナウイルス感染症対策等としてオンライン授業の実施や会議等においては密を避ける等、円滑な対策を取った。また、申請書等の押印見直しによるオンライン申請等業務の効率化を図った。
- ウ 引き続き新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン授業に対応するための設備や機材の導入、学生への教材送付等、同感染症対策に係る経費について、予算の重点化を図った。

(5) 自己点検・評価及び情報公開に関する取組

次の事項については、自己点検・評価に関して必要な取組を行っていると思われる。

- ア 昨年度整理したSNSの性質に応じた発信方法に沿ってコンスタントに運用し、必要情報の発信を随時行っている。特にInstagramについては企画広報室と広報担当教員が情報収集を行い発信した。
- イ 「学生の生き活きとした姿がよく見える」情報発信については、オンラインオープンキャンパスでの学生発表、執行部の要望に応えての翠郷祭のPR動画の公開等で行った。

(6) その他必要と思われる事項

次の事項については、必要な取組として評価できる。

- ア 年次有給休暇の取得義務（5日以上）について教職員に周知し、取得についての働きかけを行った。その結果、取得日の指定を行うことなく、全教職員が自由意志により5以上の年休を取得した。
- イ これまで遠方や人数等の制約を理由に受講が困難であった研修が、社会状況の変化によりオンラインによる方式が増えたため、研修への参加を促すとともに、学内においても、オンラインによる研修を実施し、教職員の能力向上に取り組んだ。

3 項目評価

第4 教育研究等の質の向上

評価結果 B 年度計画を概ね順調に実施している。

評価対象項目の合計107項目のうち、3以上の割合が7割5分以上であることから、大項目評価としてはB評価と認められる。

〔小項目評価結果〕

	評価対象項目数	1 大幅に下回っている	2 十分に実施していない	3 順調に実施している	4 上回って実施している
教育の質の向上に関する目標	72	1	3	67	1
研究の質の向上に関する目標	16	0	0	16	0
学生の支援に関する目標	21	0	2	17	2
合計	109	1	5	100	3

【特記事項】

1 教育の質の向上に関する目標

(1) 質の高い教育課程の編成

ア カリキュラムマップ案を実際的な形にして、教務委員会で承認されたことは評価できる。

イ コロナ禍で制限はあったものの、オンライン短期留学プログラムに10名の学生が参加し、全員が「特別演習Ⅴ」の単位を修得したことは評価できる。

ウ 巡回指導や定期的な面談、ミーティングなどの機会を多く設定し、学生にとって必要な指導を行ったことは評価できる。

(2) 幅広い視野と豊かな人間性をもち、国際的に通用する人材の育成

ア 「尾道学入門」の授業形態を工夫し、受講者数を昨年度に比べ倍増できたことは評価できる。

イ 「リメディアル数学」の導入により「基礎数学Ⅰ」が不可となる学生が半減したことは評価できる。

ウ オンラインでの情報の共有課題提出、アンケートなどのツールを使いこなし、積極的に学修活動を行ったことは評価できる。

(3) 専門的知識と能力を身につけ、社会に貢献できる人材の育成

ア 新規の試みとして、企業に対する視野を広げ、就職活動にも役立つ内容としたことは評価できる。

イ Forms アンケートを活用し、主体的、協働的に解決していくための取組としたことは評価できる。

(4) 教育力の向上

ア コロナ禍で対面での FD 活動ができない代わりに積極的にオンラインの講習会を開催し、議論を深める機会を作ったことは評価できる。

(5) 学生の受入れ

ア コロナ禍で制限がある中でオンラインオープンキャンパスを実施し、多角的な発信を行ったことは評価できる。

イ 説明会や模擬授業に可能な範囲、可能な方法で対応したことは評価できる。

(6) 大学院教育

ア 大学院授業科目、学部科目の履修に関して具体的に検討した内容を反映できるようにしていきたい。

イ 絵画研究分野では、研究計画に即した制作に関するディスカッション等、教員と学生の間で双方向のコミュニケーションの充実を図ったことは評価できる。

ウ 内部進学をより推進するため、学部や大学院の講評時に、学部生、大学院生双方が、それぞれの講評に参加できるような仕組みを検討し、Teams 上で一部、試行的に実施したことは評価できる。

2 研究の質の向上に関する目標

(1) 研究の活性化

ア ファカルティラウンジを設置し、共同研究に必要な機材を整え、活用したことは評価できる。

イ 学生が取り組んでいる研究内容や、教員の研究分野等について、学外の人に伝わりやすい内容に工夫したことは評価できる。

(2) 研究の実施体制

ア 学科教員の共同研究が進み、その成果を2編の紀要論文にまとめ公表したことは評価できる。

イ コロナ禍の影響により、当初計画されていた教員の米国の大学でのサバティカル研究派遣の実施が困難となったため、急遽、派遣先を国内大学に切り替え、1年間のサバティカル研究派遣を実施したことは評価できる。

3 学生への支援に関する目標

(1) 学習の支援

ア 要対応学生の増加に対し、学内関係組織が連携しながら早期発見・早期対応に努めたことは評価できる。

イ 想定外の状況に対応し、適切な分析、整理に繋げ支援を行ったことは評価できる。また、ホームページの更新、研修の実施、ピアサポート活動の支援など、幅広い活動ができたことは評価できる。

(2) 学生生活の支援

ア 学生生活実態調査の調査結果に基づいて、“食”の重要性に関する意識啓発や食生活の改善に資する具体的な取組に繋げ、実践できたことは評価できる。

(3) キャリア形成の支援

ア 20代及び30代の幅広い卒業生を講師とし、学生のキャリア形成に役立つ情報を提供したことは評価できる。

(4) 経済的支援

ア 学生支援に迅速かつ適切に取り組んだことは評価できる。

第5 地域貢献及び国際交流に関する目標

評価結果 A 年度計画を順調に実施している。

評価対象項目の合計11項目のうち、3又は4の割合が100%であることから、大項目評価としてはA評価と認められる。

[小項目評価結果]

	評価対象項目数	1 大幅に下回っている	2 十分に実施していない	3 順調に実施している	4 上回って実施している
地域貢献に関する目標	6	0	0	6	0
国際交流に関する目標	5	0	0	5	0
合計	11	0	0	11	0

【特記事項】

1 地域貢献に関する目標

(1) 地域社会との連携・協働

ア コロナ禍で対面開講が難しい中で新しい取組を行い、地元企業との連携を生み、従来とは異なる形で地域還元したことは評価できる。

(2) 地域への学習機会の提供

ア 新型コロナウイルス感染症感染拡大に配慮しつつ、対面やオンラインで公開講座を実施したことは評価できる。

2 国際交流に関する目標

(1) グローバル化の推進

ア コロナ禍において海外大学との交流に積極的に取り組んだことは評価できる。

第6 業務運営の改善及び効率化に関する目標

評価結果 B 年度計画を概ね順調に実施している。

評価対象項目の合計5項目のうち、3以上の割合が7割5分以上であることから大項目評価としてはB評価と認められる。

[小項目評価結果]

	評価対象項目数	1 大幅に下回っている	2 十分に実施していない	3 順調に実施している	4 上回って実施している
業務運営の改善及び効率化に関する目標	5	0	1	4	0
合計	5	0	1	4	0

【特記事項】

(1) 教育研究組織の充実

ア 他大学の教学IR推進事例を参考に積極的な取組を進めてもらいたい。

(2) 業績評価制度の確立

ア 業績評価を実施し、研究費の配分及び表彰等において活用し、表彰を受けた教員をホームページで公開したことは評価できる。

(3) 事務処理の改善・効率化

ア オンライン授業の実施や会議等では密を避けるなど、円滑な対策をとり、押印見直しによるオンライン申請等業務の効率化を図ったことは評価できる。

第7 財務内容の改善に関する目標

評価結果 A 年度計画を順調に実施している。

評価対象項目の合計4目のうち、3又は4の割合が100%であることから大項目評価としてはA評価と認められる。

[小項目評価結果]

	評価対象項目数	1 大幅に下回っている	2 十分に実施していない	3 順調に実施している	4 上回って実施している
財務内容の改善に関する目標	4	0	0	4	0
合 計	4	0	0	4	0

【特記事項】

1 財務内容の改善に関する目標

(1) 資源の適正配分

ア 新型コロナウイルス感染症対策に係る経費について、必要な事業へ予算重点化を図ったことは評価できる。

(2) 外部資金等の獲得

ア Teams に新たにチャンネルを開設し、情報提供を開始したことは評価できる。

第8 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

評価結果 A 年度計画を順調に実施している。

評価対象項目の合計4項目のうち、3又は4の割合が100%であることから大項目評価としてはA評価と認められる。

[小項目評価結果]

	評価対象項目数	1 大幅に下回っている	2 十分に実施していない	3 順調に実施している	4 上回って実施している
自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	4	0	0	4	0
合 計	4	0	0	4	0

【特記事項】

1 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

(1) 自己点検・評価の充実

ア 大学機関別認証評価の受審に向けての諸作業のため、リサーチマップの利活用について十分な検討を行い、利活用の推進に努めていただきたい。

(2) 情報公開及び広報活動の推進

ア 学生に馴染みのあるインスタグラムの運用方法を工夫し、活用に力を入れたことは評価できる。

イ コロナ禍で制限がある中で、クラブ・サークル活動について感染拡大防止に配慮しつつ活発に行ったり、学友会と連携をとりながら様々な学友会行事を実施したことは評価できる。

第9 その他業務運営に関する重要目標

評価結果 A 年度計画を順調に実施している。

評価対象項目の合計5項目のうち、3又は4の割合が100%であることから大項目評価としてはA評価と認められる。

【小項目評価結果】

	評価対象項目数	1 大幅に下回っている	2 十分に実施していない	3 順調に実施している	4 上回って実施している
その他業務運営に関する重要目標	5	0	0	5	0
合 計	5	0	0	5	0

【特記事項】

(1) 施設・設備の整備と活用

ア 施設の計画的な維持管理に努めていただきたい。

(2) リスクマネジメントの強化及び法令遵守の推進

ア 全教職員が自由意志により5日以上の子休を取得したことは評価できる。